

国交省近畿整備局 殿

「太閤堤」

国交省近畿整備局は、「太閤堤」を積極的に文化財、史跡指定及び保全活動に取り組む姿勢、方針を明らかにして下さい。

国、関係機関は、挙げて全貌発掘調査と史跡保存、保全活動が求められています。

琵琶湖・淀川水系流域圏京都桂川流域住民 酒井 隆

宇治川護岸遺跡(太閤堤)の発掘成果資料

070908

調査場所	宇治市菟道丸山地区内	発掘機関	宇治市歴史資料館 TEL0774-39-9280
委託者	陸橋建設株式会社 京阪電鉄不動産株式会社	発掘作業	NPO法人文化財支援センター
調査期間	平成 19 年 6 月 18 日開始 ~ 12 月 28 日終了予定		
発掘面積	現況 1300 m ² (深さ約 1.5~3.5m)	発掘理由	マンション建設に伴う緊急発掘
検出遺構	宇治川旧護岸遺跡 延長 75m	出土品	中近世土器・瓦など整理箱 1 箱。

1. 発掘調査のきっかけ

今回の発掘調査は、京阪宇治駅西側一帯に計画された土地区画整理事業に伴うもので、弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡を中心とする乙方遺跡の保護のため、文化財保護法に基づいて実施しています。このなかで、宇治川寄りの調査区から今まで存在がわからなかった大規模な宇治川旧護岸遺跡が発掘されましたので、その概要を報告します。

2. 発掘された護岸遺跡の内容

護岸遺跡が発見されたのは、調査区の北端宇治川堤防東側の場所で、南北に長さ 75m にわたって石積み護岸が極めてよい保存状態で検出されました。かつての宇治川右岸の護岸施設であり、江戸後期には洪水で埋没し陸化していたため、今まで存在がわからなかったものです。

護岸の規模は幅 5.5m、高さ 2.2m を測り、石出 (いしだし) も 1 カ所見つかりました。護岸の構造は、傾斜 30 度の法面 (のりめん) の下端に径 20 cm の松杭を打ち、割石を盛り上げて水流に備え、上半部から天端(馬路：ばふみ)にかけては割石をきれいに貼りつけ化粧としてしています。石出は、基部の幅約 9m、長さ 8.5m の平面台形状の石垣積で、内部には割石が充填され堅固に造られています。石出は水流から護岸を守る施設です。発掘状況でも上流側は水流をまともに受けて護岸破損が顕著なのに対して、下流側は当初の姿が良く保存されていました。この護岸施設に使われている石は粘板岩で、3 km ほど上流の天ヶ瀬ダム付近の川岸から切り出されたものと考えられます。昭和 54 年に見つかった横島堤遺跡でも同様な石が使われていました。

3. まとめ

今回見つかった護岸施設の築造年代については、出土遺物が少なく現状では正確に判定できませんが、次の 3 点から豊臣秀吉が築堤を命じた太閤堤に関係する治水施設であると考えられます。一つは、宇治川右岸に護岸が必要になる契機は、1594 年から築堤が始まった横島堤の造成に求められること。二つ目は今回の護岸の造成方法や石材が、以前に見つかった横島堤遺跡と同じこと。三つ目として、出土土器から見て護岸は 1600 年代後半には部分破損していたことです。今回の発掘は、いわゆる太閤堤の実態が初めて広範囲に明らかとなったばかりでなく、当時の大規模な治水の実像を具体的に知ることができる、全国的にも数少ない一級の発見であると考えます。

太閤堤について

「太閤堤」とは、豊臣秀吉が伏見城築城に伴い、宇治川の川筋つけ替えに関係して築いた堤防のことで、宇治から向島までの「横島堤」、宇治从小倉までの「藪場堤」、小倉から向島までの「小倉堤」の計 12 km の総称として一般的に用いられています。

太閤堤の築堤開始は、『村井重頼覚書』などによれば文禄三年 (1594) のことで、宇治川を巨椋池から切り離し、向島まで延長する左岸の横島堤から工事が始まったとされています。右岸の護岸に関する記録は、今のところ見当たりません。

これら太閤堤の現状は、横島堤が現在の宇治川左岸堤防として引き継がれており、堤防の中に埋没しています。昭和 54 年の堤防工事の際に、当初の横島堤遺跡が断面に露出したことがありました。この時の調査所見 (横島堤調査会) では、当初の堤防は割石で築かれており、裾に松杭が施設される構造であったようです。規模については、写真を見ると幅 10m ほど、高さ 2~3m ほどに想定できます。その後、この堤の上には度重なる盛土が行われ、当初に数倍する現状の堤となりました。

小倉堤については、巨椋池干拓に伴い、西目川と三軒家の堤防集落部を除き削平され、藪場堤も昭和 30 年代に削られその地割痕跡を残すのみとなっています。

太閤堤は豊臣秀吉が行った大規模な治水工事として著名なものですが、実際には不明な点が多く、今回の発見は初めてその詳細な具体像を窺う重要な事例となりました。



現在の左岸堤防の中に埋没している横島堤遺跡 (石の部分、昭和 54 年)

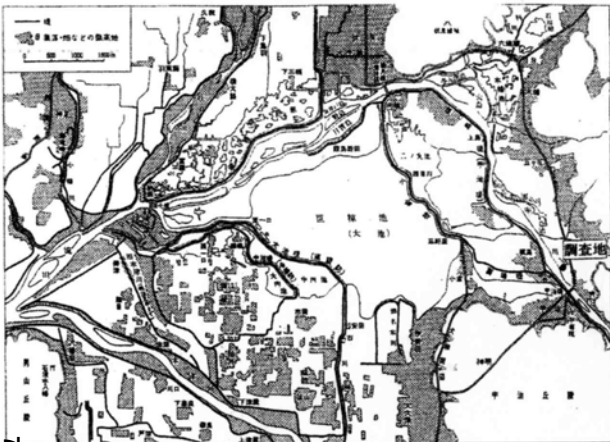


図1 巨椋池をめぐる堤



図2 位置図

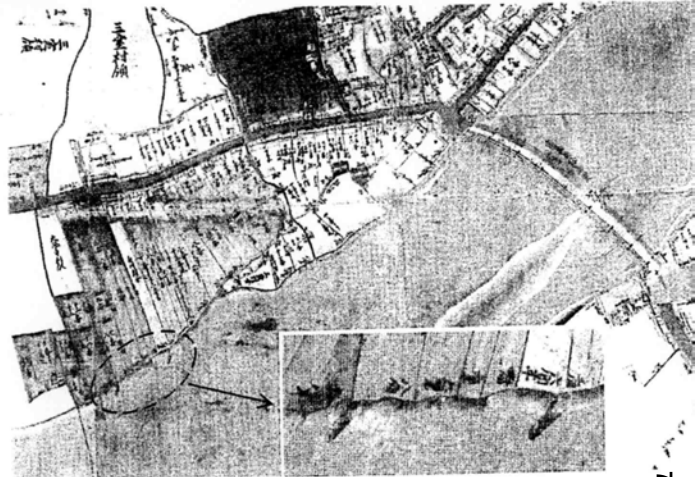
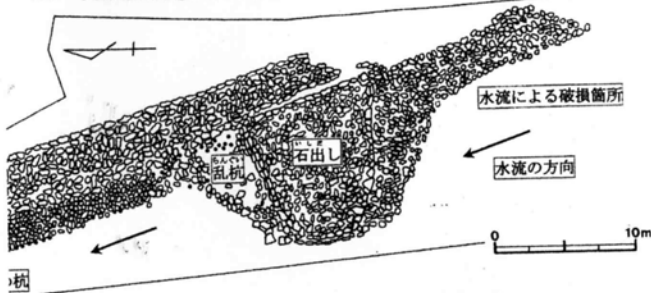


図3 『宇治郷絵巻図』にみえる出し



14 A調査区平面図 (1/250)

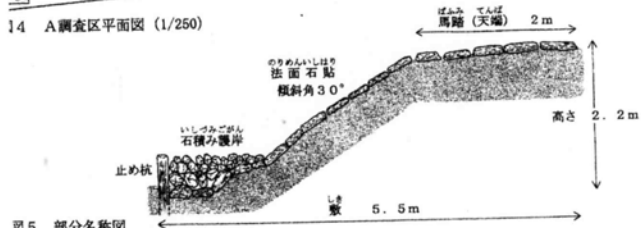


図5 部分各図